ＧＩＧＡスクール構想の取り組みについて

１　児童生徒１人１台端末更新

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をとおして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、教員の働き方改革と両立させるためのインフラとして１人１台端末が整備された。

本市においては、県内自治体に先駆けて令和２年12月に整備を行ったが、本年12月には購入から５年が経過し、内臓バッテリーの耐用年数を迎えることから、本年度中には全ての端末を更新する。

２　リーディングDXスクール事業

全国各地では、意欲的な取組が次々と生まれつつある一方で、端末を日常的に活用している学校とそうでない学校との間で大きな差が生じていることから、全国すべての都道府県及び政令指定都市に指定校を置き、ＧＩＧＡ端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を徹底的に活用し、情報活用能力の育成とあわせて、家庭学習の充実を図っている。

令和５年度及び６年度は塩山南小学校及び塩山中学校が指定され、事業実践を重ねてきた。

本年度は、祝小学校及び勝沼中学校が指定され、10月には研究発表を計画し、文部科学省の担当者が視察予定である。

３　生成ＡＩパイロット校

近年、急速な進化を遂げている生成ＡＩは、かつてないスピードで社会に普及しており、ＡＩ時代を生きる子どもたちが生成ＡＩをはじめとするテクノロジーを使いこなし、才能が開花できるようになることは重要である。

一方で、生成ＡＩの出力には、ハルシネーション（事実に基づかない情報の生成）、バイアス（偏見）等が含まれる可能性があるため、最適解とは限らないことを認識し、リスクや懸念を踏まえて最後は人間が判断し、責任を持つこととなる。

学校現場においては、資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味したうえで利活用する必要がある。

そのためには、適切な課題設定と指示文により出力させ、その真偽や適切性を自ら的確に判断する能力が涵養であり、体験活動の充実を始めとする教育活動の実体験とICT利活用とのバランスが必要である。